

○令和6年度 福祉学習実施数

No.	実施日	講座名	担当課	共催団体名	参加人数	講座の成果と課題
1	10月5日	「更生保護のシンポジウム」 -安心・安全な社会づくりのために-	重層的支援推進担当	武庫川女子大学 社会福祉ボランティアサークルムコネク 尼崎市保護司会 一般社団法人TICC	31人	・「生きづらさ」を抱える子どもたちへの向き合い方について考えるきっかけになった、 ・加害者が抱える環境に目を向け、加害者へ社会復帰支援を行うことが、被害者を少なくすることにつながることを伝えることができた。 ・保護司の活動について広報する機会となった。
2	10月6日	「VR技術で、人と人が理解しあえる社会へ」～VRを学ぼう、VRで共感しよう～	重層的支援推進担当	関西学院大学工学部 尼崎市ケアマネージャー協会	50人	・VR技術を用いて、認知症を患った方の心身状況を身をもって実感していただくことで、市民への認知症に対する理解を深めることができた。 ・福祉・健康課題を抱える方との支え合う地域づくりを考えるきっかけとなった。
3	10月12日	「学校から考える地域社会」	重層的支援推進担当	「夢見る公立校長先生」上映実行委員会	100人	・地域と学校の結びつきを考えるきっかけとなった。 ・ひとりひとりの持つ力や可能性を大切に、「楽しい」学校や地域づくりを考える大切さを共有する場となった。 ・子どもたちに、まちの魅力を伝え愛着をもってもらうには、学校としての構想を考え具現化する必要があると認識した。
4	10月20日	コミュニティファームを知ろう！ 「おやかさといも収穫体験」	重層的支援推進担当	園北ファーム	30人	・子育て世代を対象に収穫体験を実施し、地域の農産物や生産現場といった資源を知るとともに、ファームが地域住民の生活に密接に関連して多様な役割を果たしていることを知る機会となった。
5	10月27日	「みんなのぼうさい」 -経験をちからに-	疾病対策課 重層的支援推進担当	尼崎市難病団体連絡協議会	35人	・自助は共助の力を最大限に活かすためになり、改めて自助・共助の大切さを伝える場となった。 ・普段、家庭で使っているものを、災害時に活用できる事例の紹介は、身近で、自助の備えをすぐに行動にうつしてもらえきつかけとなった。 ・災害時の備えは、それぞれの特性に応じた日常からの備えが大切であることを共有することができた。
6	11月10日	おやか防災クッキング	小田地域課 重層的支援推進担当	兵庫県立尼崎小田高等学校 フレイル予防×防災探求チーム	15人	・手軽で身近なものが災害時の利用できることを伝えることで、備蓄のハードルを下げることができた。 ・高校生と親子でクッキングをしながら楽しく防災について伝えることができた。